

想いをつむぐ、時をつむぐ

セミナーイベント「つむぐ」を開催致します。テーマは「暮らしを支える3Dプリンター」という事で、医療・介護・福祉・教育の場で活躍される現場の方々へ向けたイベントとなっています。もの作りが苦手な方でも、環境調整や自助具の作成に3Dプリンターを活用することで、より親和性の高い、柔軟なもの作りが出来るようになります。まず今回のイベントでは基本的な内容をお伝えし、その後は実際に作成までの過程を毎月レクチャーしていきます。ご興味のある方はぜひご参加下さい。今回はオンラインでも同時開催致します。

～ものづくりの未来～

つむぐ

2023. 2/17[金] 19:30～20:30(受付開始19:15)
 place. ホルトホール大分 セミナールームS
 price. ￥1,000(学生無料)
 ※オンラインでも同時開催致します 参加ご希望の方はこちらから




買い物の力

普段、「何もしたくない」「料理なんて面倒」と言われるAさん。昔買い物や料理が好きだったようで、買い物へ誘うと渋々オッケーしてくれました。しかし、ひとたび買い物へ出掛けて食料品を目の前にすると、「豚汁作ろう」「おでんを作ろう」「煮物を作ろう」と、目が輝いていました。

このきっかけ作りが非常に大事で、きっかけを作る為に、Re-NKは本人にワクワクしてもらう事を最優先にしています。つまり、必ず自分の足で歩いて行くという目標にはなり得ないのです。

リハビリコラム

代償モデル（環境を変える）

作業療法の中で、“道具を使う”、“やり方を変える”、“環境を調整する”など工夫をして作業を行えるようにする方法を代償モデルと言います。

この代償モデルは即効性がありますが、心身機能の治療の効果が上がらない事を確認してからしか代償を考えてはいけなないと思込んでいる人も少なくありません。さらに、代償を考える事を「諦め」「治療放棄」「専門職としての役割放棄」などと思なす人さえます。しかし、治るか治らないかに関わらず、代償はいつでも誰にとっても即効性があります。

そんな中、作業療法士が得意とするものが、自助具作りです。自助具とは、その名の通り、自分を助ける道具です。皆さんも、瓶の蓋を開けやすくする道具なら使った事があるのではないのでしょうか。そのような道具を想像してもらうと分かりやすいのですが、障害により行いづらくなった作業も、少しの工夫でできるようになる事もあります。

適応ストラテジー

	道具を使う	やり方を変える	環境を調整する
概要	便利な道具を使うことにより、心身機能障害があっても作業をできるようにする	手順の簡略化、高低の省略、順序の変更などにより、作業をできるようにする	物理的環境や社会的環境の調整により、作業をできるようにする
例	・眼鏡、補聴器 ・スプリント ・自助具 ・福祉用具 ・移動せずに操作するリモコンスイッチ	・インスタントや冷凍の食品 ・シェアハウス ・パンツとズボンを一緒にたく ・音声入力	・エレベーター ・福祉車両 ・健康教育 ・疾病教育 ・介助者教育 ・福祉情報の広報

参考:医学書院「作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド」

人と人、人とまち、人と作業を繋げる。

まずはお気軽にご連絡ください

☎ 090-5087-3813

別府市リハビリリンク

🔍 検索

